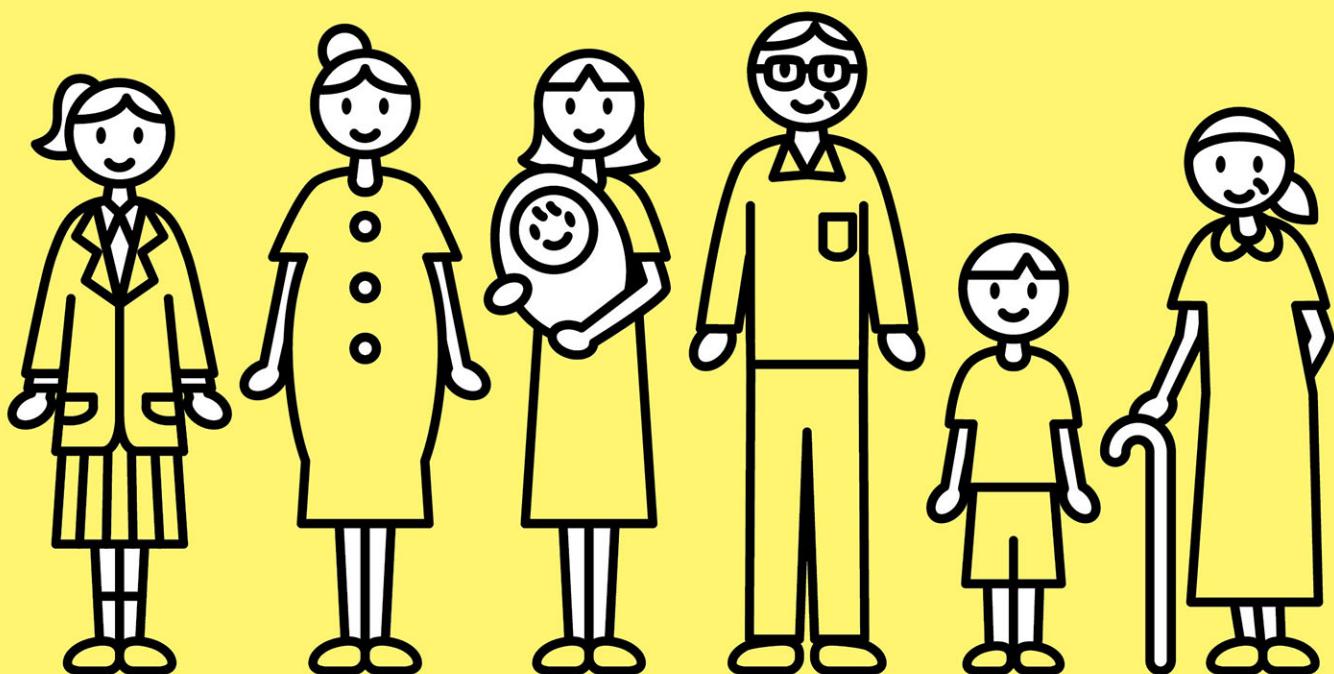


多様な視点から考える避難所運営



“みんなでできる” 4つのプログラム



新宿区は、女性、子ども、高齢者、障害者などの多様な視点を取り入れた避難所運営について考える取り組みを進めています。平成30年度は、四谷地区、榎町地区で実践しました。このリーフレットは、「多様な視点で避難所運営を考えるための4つのプログラム」を紹介し、いろいろな方に考えてもらうきっかけとしてまとめました。

多様な視点から避難所運営を考えるための 4つのプログラム

なぜ避難所運営を考えるうえで女性の視点が重要なのか?

本プログラムは、多様な視点として

特に女性の視点を大事にしています。

日頃から食事、育児、介護などの役割を担っていることが多いのは女性です。

また、過去の震災で女性はそれらの役割に加え、女性特有の困難（トイレ、着替え場所、授乳等）に直面しています。

だからこそ、避難所運営に女性の視点や子ども、高齢者、障害者などの声を反映していくことは、

避難所における要配慮者への支援の質を向上させることに直結します。



プログラム1 “見て”避難所運営を考える

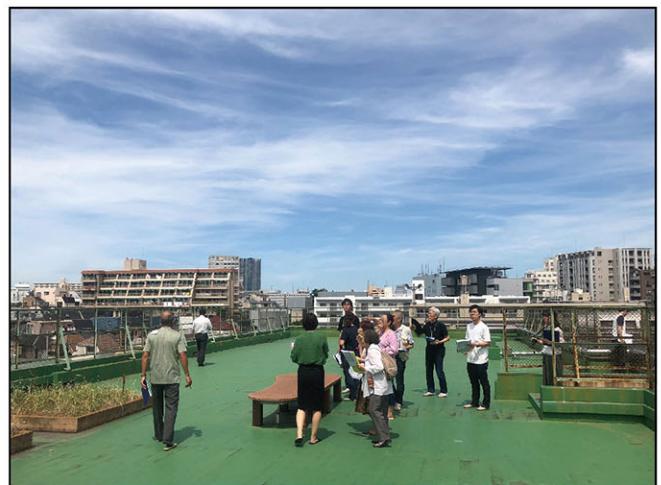
牛込第二中学校、四谷第六小学校の校舎、校庭、備蓄倉庫を見学し、女性などの視点からみた場合のスペースの使い方、運営体制などを考えました。

【参加者の感想】

- ・多様な視点から考える避難所運営チェックシート（裏表紙）を確認したうえで、見学をしたため、施設の課題が具体的になった。
- ・「マンホールのトイレの数が少ない」「校舎内のトイレは和式が多く使いづらい」「停電になつたら暗い」など災害時のトイレが不安になった。
- ・図書室、多目的スペースなどは、カーペットや間仕切りがある場合が多く、乳幼児や子どもの遊び場に向いている。
- ・避難所生活では、女性の下着などの洗濯物を干せる場所が限られてしまう。



マンホールトイレの見学



屋上の見学



プログラム2 “体験して”避難所運営を考える

排泄の基礎知識、災害時のトイレ事情を学んだ上で、区の備蓄している災害用トイレと、家庭にある新聞紙などを活用して災害時のトイレ使用について考えてみました。

【参加者の感想】

- ・実際に体験したことで、安心できた。
- ・多数の人が使う避難所のトイレでは、まずトイレのルールを決めて伝えることが大事だと思った。
- ・思ったよりゴミがでて、どこに保管するのか、どう廃棄するのか考えておかないといけないと思った。
- ・避難所の備蓄量が足りるか心配になった。
- ・身体が不自由な人はどうするのだろう？



備蓄品の災害用トイレの体験

コラム

簡単！家庭でもやってみよう！災害時のトイレ体験

【必要なもの】

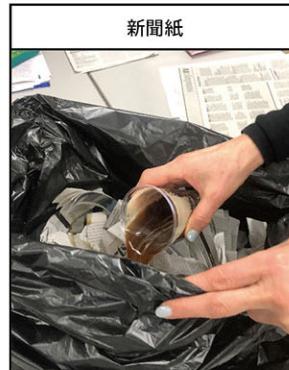
カレー粉、水、カップ、ポリ袋(4.5ℓ)、防臭袋、市販のトイレ凝固剤、新聞紙、猫砂、ペットシート、オムツ(赤ちゃん用、成人用)など

【方法】

カップ一杯の水にカレー粉をとき、凝固剤や代用品を試してみましょう。カレー粉の匂いで消臭効果を確認することができます。吸収剤の種類による水分の吸い取り具合、固まり具合、ゴミがどれくらい出るか、避難所や家庭でどうやって保管するか考えてみましょう。

ポイント！

一般的な成人の排尿量は1回につきカップ一杯、1日に約5回トイレに行くと言われています。



プログラム3 “時間で”避難所運営を考える

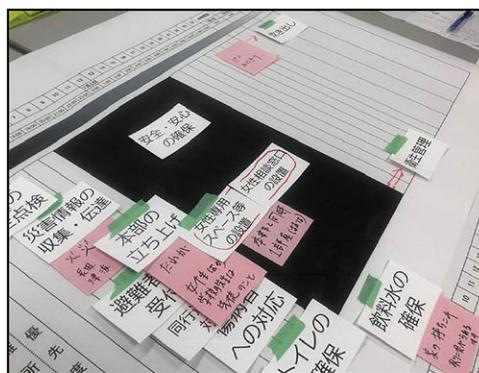
地震直後から1週間後までの避難所で行う様々な行動を、2つの発災パターン（「夏の平日・日中」、「冬の休日・夕方」）で考えました。

行動の種類

避難者の受付、施設の安全点検、本部の立ち上げ、トイレの確保、照明の確保、衛生管理、ペット同行避難者対応など

【参加者の感想】

- ・発災のタイミングや人の集まり具合などによって、優先しなければいけないことが変わることがわかった。
- ・冬の夕方はすぐに暗くなってしまうので、停電になった場合、照明の確保は最優先だと思った。
- ・時間を感じながら行動を考えることで、漠然としていた避難所の活動が実感できた。



黒く塗りつぶされた所は夜間
横軸が時間の経過、縦軸が行動の優先度



プログラム4 “平面で”避難所運営を考える

地震1週間後の避難所のレイアウトを、実際の避難所の図面に「避難所機能カード（表面に避難所の機能名、裏面に関連するエピソード）」を置いてレイアウトを検討しました。

【参加者の感想】

- ・カードに関連するエピソードが書いてあるので、いろいろな状況を想像できてよかったです。
- ・（男性なので）なぜ女性が夜のトイレが怖いのかわからなかつたが、エピソードを読んでイメージできた。
- ・介護で体を拭いたりするので、男女は別のフロアだと安心だと思う。
- ・女性用品の配布は、女性の着替え部屋にあると気兼ねなくゆっくり選べる。



表:機能名

裏:エピソード

- ・着替えをする場所がなく、布団の中で周りの目を気にしながら着替えた。
- ・着替えスペースとして1人用テントが配置されたが、高齢者にとっては、つかまることなどがなく苦労した。

コラム

リアルな擬似体験! 避難所運営ゲーム(HUG)

避難所の運営やレイアウトを考えるにあたり、避難所運営ゲーム(HUG)を実施しました。HUGは、カード1枚1枚を避難者にみたて、カードに書いてある様々な事情を持った避難者を、避難所でどう受けしていくかを疑似体験できるカードゲームです。

本プログラムでは、男女共同参画、LGBT、障害者対応、地域との連携などの視点を踏まえたカードを活用しました。

実際の避難所の図面や備蓄品リストを活用してゲームをすることで、部屋のゾーン分けやルールづくりの必要性を実感できました。

協力:静岡県、HUGのわ



遊戯室に授乳場所が確保されたケース

参加者からの解決策のアイデア

- ・できる限り発災直後から女性専用スペースを確保しておくこと。直後は1部屋だけでもよいが、長期化などの状況やニーズに対応していく柔軟さが必要。
- ・子どもの遊び場と女性専用スペース、女性専用物干し場などは隣接して配置すると、母親は安心できる。
- ・女性特有のニーズ（生理、トイレ、授乳など）や男女に限らず周囲に伝わりづらい障害者、介護などのニーズに気がつき、改善に繋げるための相談窓口や無記名のご意見ボックスを設置するなどの工夫が必要。
- ・トイレが汚れ始めたらあつという間に汚れてしまい掃除が大変なため、トイレに関するルール（掃除、当番、処理の仕方など）はできる限り早く周知する。
- ・避難所運営には、多様な視点を取り入れやすいよう、女性リーダー、男性リーダーの両方が必要である。

過去の教訓に学ぶエピソード集

阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などでは、女性、子ども、高齢者などが避難所生活において困難に直面していました。
自分だったらどうするかを想像しながらエピソードを読んでみましょう。

01 着替え・休憩スペース

- ・着替えをする場所がなく、布団の中で周りの目を気にしながら着替えた。
- ・着替えスペースとして一人用テントが配置されたが、高齢者はつかまるところがなく苦労した。
- ・女性専用の避難部屋が設置された避難所であるにもかかわらず、待機する職員が男性のみであり、部屋の清掃などが難しかった。

02 乳幼児家庭・子ども

- ・乳児や障害を持つ子どもを抱えた家族は、周囲に気遣い避難所にいづらくなり自宅へ戻った。
- ・雨天時は子どもは屋内でしか遊べないため、静かに過ごしたい方のためにも、子どもが騒いでも大丈夫な場所を確保すべきだった。

03 トイレ

- ・トイレに鍵がかかなかったり、周りが暗かったりして怖く、利用しにくかった。
- ・女性用は長蛇の列になっていた。
- ・トイレが汚くて、入るのが嫌なため、トイレになるべく行かないように、水分を取るのを控えた。
- ・トイレを我慢した結果、多くの女性が膀胱炎やカンジタになった。
- ・避難所のトイレでは車いすの人は用が足せず、そのたびに半壊のアパートに戻っていた。

04 物資配布場所

- ・下着や生理用ナプキンが生活用品や男性用品と一緒に選びにくかった。
- ・安全管理などの理由から男性だけが物資担当になると、女性が物資を受け取りにくかった。

05 その他

- ・父の介護を誰に相談して良いかわからず、家の掃除や罹災証明をもらいに行く暇もなかなか無かった。
- ・避難所では一部の女性たちだけが炊き出しを担うことも多く、長期にわたると疲弊してしまった。

コラム 座談会で聞く被災地のリアル

被災地の避難所生活や女性、子ども、要配慮者たちの実際について、有識者3名をお迎えし、お話を聞きしました。

樋熊憲子 氏／男女（ひと）がともに生きる社会を進める F&Mながおか市民会議代表
平成16年の7.13水害と中越大震災で女性が抱えた問題として、平常時の防災計画検討および災害時の避難所運営などの意思決定に女性が参画していないこと、連続する震災により性別による役割が固定化しがちになってしまることがあげられます。

新沼真弓 氏／減災レジリエンス研究会、防災士
震災直後の避難所は、赤ちゃんがえりする子どもが多くまた、避難所の備蓄品に高齢者や子ども向けの食料がないことから体調を崩した方がいました。避難所開設のメンバーは男性がほとんどでした。

浅野幸子 氏／減災と男女共同参画研修推進センター共同代表 他
地域防災組織のマネジメントには、企業によくあるトップダウン型だとリーダーが倒れた場合代替の人材が難しいことから向きません。避難所では、ネットワーク型が適しており、フラットな関係、多様性の尊重、情報の共有・協議がしやすいことが重要です。



左から樋熊氏、新沼氏、浅野氏

多様な視点から考える避難所運営チェックシート

女性・子ども編

このチェックシートを活用し、
避難所や家庭の防災対策を見直してみましょう。

避 難 所

- 異性の目線が気にならないスペース(更衣室、授乳室、休憩所、物干場など)がありますか?
- 乳幼児のいる家庭用のスペースはありますか?
- 単身女性や女性のみの世帯用スペースはありますか?
- トイレは女性や子どもが安心して使用できる環境になっていますか?
- 避難所のリーダーは男女ともにいますか?
- 女性や子育て家庭、介護家庭などの意見やニーズを聞き取ること(女性相談員や相談窓口、意見箱などの設置)はできていますか?
- 女性用品は、女性が選びやすい場所(女性専用スペースなど)にありますか?
- 炊き出し、掃除、片付けなどの役割は女性に固定化していませんか?
- 一部の男性だけが責任を一手に引き受けたり、毎晩巡回をしているなどしていませんか?

家 庭

避難所の備蓄物資には、種類や数量に限りがあります。
自分に必要なものは、自分で避難所に持参することも大切な備えになります。

女性用品

- 生理用ナプキン
- おりものシート
- サニタリーショーツ
- 尿取りパット
- 中身の見えないごみ袋
- 化粧水・保湿クリーム
- 下着
- 大判のウェットシート(体拭き)

乳幼児用品

- 粉ミルク
- 粉ミルク用飲料水(軟水)
- 哺乳瓶
- 哺乳瓶用消毒剤
- 湯沸かし器
- だっこひも
- おむつ(赤ちゃん用)
- おしりふき
- ポータブルトイレ

授乳用ポンチョ

乳幼児用着替え

アレルギー対応ミルク

アレルギー対応ベビーフード

介護用品

- おむつ(介護用)
- 介護食
- おしりふき